

## 平成28年度 1年間の人権教育の取組〈大胡小学校〉

### 1 研究テーマ

互いを認め合い、伸び伸びと生きる子供の育成  
～学校・家庭・地域社会の連携を通して～

### 2 研究のねらい

互いを認め合い、伸び伸びと生きる子供を育成するために、学校・家庭・地域社会の連携した取組が有効であることを実践を通して明らかにする。

### 3 研究の内容

本校は、人権教育総合推進事業に合わせて、本年度より「前橋市の教科別研究（音楽）」の指定を受けた。そこで、「人権教育的視点を踏まえた音楽科指導」についての講演会を行ったり、音楽科の目標と人権教育との関わりについての見直しを行ったりしながら、研究の方向について話し合いを重ねてきた。研究の副主題に、本校独自の「よさを認め合える交流活動の工夫」を加え、今までの実践で定着してきた交流活動を生かし、音楽科と音楽活動を核とした、豊かな人間性育成のための取組を行うこととした。

#### (1) 人間関係づくり部

##### ①「けやッキートーク」(交流活動)

本校の交流活動に、構成的グループエンカウンター技法を取り入れ、児童同士の間人関係を高める活動にしていくために、「けやッキートーク」と名付け、3つのルールを決めて、毎月継続して取り組んできた。

3つのルールは、①「おねがいします ありがとう」、②「うなずいてきく」、③「ともだちがニコニコえがおになるように」とし、全クラスに掲示してルールを意識しながら行えるようにした。

児童は、「けやッキートーク」で行う、「アドジャン」や「質問じゃんけん」「二者択一」を楽しみにし、積極的に交流できるようになってきている。

さらに、「関係づくりの灯」を灯し続け、3つのルールをしっかりと身に付け、授業中の交流活動につなげていけるようにしていきたい。

##### ②「音楽集会」「歌声タイム」

「なかよし委員会」を作り、音楽集会を含む集会活動を児童主体の活動とし、全校や異学年交流を取り入れて、人権教育の視点で工夫・改善を行った。

「音楽集会」では、導入に「体と心ほぐし」や「手遊び」を取り入れたり、隊形をコの字型とし、お互いの声を聴き合いながら歌えるようにしたりと、楽しく活動できるように工夫した。

また、毎日の朝活動に「歌声タイム」設定し、今月の歌の練習を各学級で行い、週に1度は学年内や異学年交流を取り入れて行うこととした。特に、異学年交流では、お互いに聴き合い、教え合いながら、楽しく歌の練習をすることで、普段交流のない児童同士がふれあい、交友関係を広げることができた。



#### (2) 授業研究部

##### ①生活習慣、学習習慣の徹底

学期ごとに「学びウィーク」「すこやかウィーク」を設定し、生活習慣や学習習慣の見直しを行った。児童は、自分なりにめあてを決め、できるようになろうと努力している様子が見えた。

保護者も毎日確認し、児童のがんばりを認めて感想を書いてくれる方も多く、自信につなげることができた。

##### ②指導案作り

11月の計画訪問に向けては、全職員が指導案に「人権教育との関わり」の項目を入れ、人権教育の視点で授業を計画することができた。日々の授業も、人権教育との関わりで見直すよい機会となり、その後も人権教育を意識した授業づくりを積極的に行うことができるようになった。

##### ③優秀ノート賞

教科や学年に応じたノートの書き方を共通理解し、学期ごとに優秀ノート賞を設定して、児童の意欲付けを行った。ノートに自分の考えをきちんと書くことで、根拠を明確に自信をもって発言したり、友達の考えと比べたりすることができる児童が増えてきた。また、授業の中での言葉遣いも意識でき、言語環境の整備にもつながるものと考えている。

### (3) 家庭・地域社会との連携

6月と12月の学校公開日を利用して、「人権に関する授業」を計画し、保護者や地域に公開した。児童だけでなく、保護者にも感想を寄せていただき、学校だよりや学年だよりなどで紹介した。特に、12月は、人権集中学習に合わせ、人権集会も公開した。

(下表は、各学年の人権に関する授業の内容)

<b>第1学年 学級活動「よいところをさがそう」</b> 事前に、同じグループの友達のよいところを探して手紙を書き、友達が自分のどんなところがよいと感じているのか知る活動をした。友達から教えてもらったことを参考に、自分のよいところを発表し合い、だれもが大切にされていること、大切な存在であることに気付くことができた。自分のよいところが分からない児童が、予想以上に多かった。友達から「よいところ」を教えてもらえて、嬉しそうな表情がたくさん見られた。周りから、認められる経験は、自尊感情を高めていくことにつながり、一人一人が、満足し安定した気持ちで生活することで、相手にも優しい気持ちで接することができるのではないかと感じた。
<b>第2学年 道徳「親切について考えよう」(ぐみの木と小とり)</b> 導入で、けやッキータイムの約束を意識して、アドジャンを行った。資料は、病気のりすに食べ物を届けに行く小とりが、嵐に遭遇し、届けに行くかどうか葛藤するが、結局りすのために食べ物を運ぶという話である。児童は、主人公の葛藤する気持ちを考えたり、食べ物を届けた後の登場人物になって役割演技をしたりした。その中で、困っている友達がいたら、進んで手をさしのべる大切さを感じた。振り返りでは、自分の生活で、親切にしたこと、されたことを思い出し、これからの意欲につながられた子が多かった。
<b>第3学年 道徳「すてきな友だち」(わたしたちの道徳)</b> 授業の最初に学年合同で、「質問じゃんけん」を行った。なるべく違うクラスの児童との交流を進めるようにしたので、日頃あまり関わっていない友達とも、話をするきっかけになりよかった。道徳では、友達がいてよかったことを思い出して発表し、資料「同じ仲間だから」を読み、本当の友達について考えることができた。
<b>第4学年 総合「ふれあいを広げよう(手話講習会)」(福祉教育)</b> 「ふれあいを広げよう」の一環として、「手話教室」を行った。前橋市聴覚障害者福祉協会へ講師派遣を依頼し、聴覚障害者と手話通訳者に来ていただき、聞こえないということについての講話を聞いたり、簡単なあいさつの手話を教わったりした。また、「ともだちはいいもんだ」の手話コースを体験した。実際に障害者の方と接するのは初めてという児童がほとんどで、初めは緊張気味だったが、講師の方の体験談や普段の生活等についての話に、だんだん真剣に聞き入る様子が見られた。耳の不自由な人への接し方だけでなく、手話通訳という仕事にも興味をもった児童が多かった。
<b>第5学年 学級活動「グループ活動NGランキング」</b> グループ活動でよくない行動をしている5通りのメンバーについて、「こんなメンバーがいたらやる気が出ないな。」と思う順に番号を付ける。同じものを1位にした児童同士で集まり、選んだ理由と、グループ活動で気を付けることを話し合い、グループごとに話し合った内容を発表する。最後に、グループ活動で大事なことをまとめ、合い言葉を考えた。グループごとの話し合いでは、積極的に意見を出し合い、今までの自分の関わりを振り返るよい機会となった。
<b>第6学年 学級活動「人権講話」</b> 車いすで生活されている建築家、高橋宜隆さんを講師に、人権講話を行った。障害のある方の割合は8%で、「日本に多い苗字トップ5」の人口の割合と同じで、共に生活することの大切さを教えていただいた。バリアは、障害のある人ではなく、障害のある人を取り巻く社会にあることを、理解することができた。保護者にも参加してもらい、感想を寄せてもらうことで、家庭への啓発にもなった。

## 4 成果と課題

### (1) 研究の成果

- 構成的グループエンカウンターについて全職員で研修を行ったり、「けやッキートーク」のルールとして、本校の交流活動の基本的なとらえ方を共通理解したりすることができた。児童も「けやッキートーク」のルールを意識しながら、友達との関わりを楽しむことができるようになってきた。
- 音楽科の目標と人権教育との関わりについて整理し、今までの実践で定着してきた交流活動を生かした「音楽集会」「歌声タイム」「授業づくり」について、研究を行うことができた。
- 集会活動を児童主体の活動として、委員会を中心に計画・実行することで、児童が全校の前で活躍できる機会が増え、自信をもって主体的に自分の役割を果たそうとするようになった。

### (2) 今後の課題

- 人権教育を意識した交流活動が定着しつつあるが、授業中の交流活動や日常生活においても、身に付いたルールを生かして行動できるように、継続した取組が大切である。
- 2年間の取組について、成果と課題を全職員で共通理解し、人権教育や各教科の年計等に明記し、来年度の研究の方向性をはっきりさせておくことが必要である。
- 人権教育の最も基本となる「家庭」の意識を高め、学校と有機的に連携することで、児童の人権意識を効果的に育てていきたいと考え、そのための手立てを継続的に講じていきたいと考える。